

# 11月23日のウクライナ情報

安齋育郎

## ●インフレ率ランキング(2022年11月22日)

RIA Novosti は 193 か国の国のインフレ統計に基づき計算を行った。最終報告書は 11 月中旬まで 9 月のインフレ データを開示した 155 カ国のデータが含まれている。欧州では 9 月の最高値はモルドバ 34% でウクライナの 24.6%が最高値を示した。ロシアは 45 位。

<https://twitter.com/TeiichiAoyama/status/1594867252045971456?t=fc3YvJNcnz9ncCqKlXMPHg&s=09>



報道機関 RIA Novosti が日曜に発表した調査によると、ジンバブエ、レバノン、ベネズエラは年間インフレ率で世界をリードしている。

RIA Novosti は、世界中の 193 か国の国のインフレ統計に基づいて計算を行った。最終報告書には、11 月中旬までに 9 月のインフレ データを開示した 155 カ国のデータが含まれていた。

世界で最も高いインフレ率はジンバブエの 280.4% でした。同国の物価上昇は今年の冬の終わりに加速し始め、9 月までに 4.6 倍に加速した、とレポートは述べている。

レバノンのインフレ率は 162.47% で、世界で 2 番目に悪かった。中東地域の他の地域では、トルコで高い数値が記録された (83.5%)。

何年にもわたって物価の上昇に苦しんできたベネズエラは、157.4%のインフレ率で世界第 3 位になった。

ヨーロッパでは、9月の最高値はモルドバの34%で、続いてウクライナの24.6%であった。リトアニアは24.1%で、EUで最も高い数値を示した。

ロシアはリストの45位にランクされ、9月の価格上昇率は13.7%でした。しかし、経済開発省が先週発表したデータによると、その後、同国のインフレ率は12.4%まで低下した。

## ●「ドンバスを殺すな」キャンペーン(2022年11月19日)

2022年11月19日、私たちはドンバスの市民がウクライナ軍とネオナチの準軍事部隊による絶え間ない砲撃にさらされている事実を、もう一度思い出して世界の注意を喚起したいと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=0j1BNbcZhjM>

※日本語字幕なし

〈ツイッター・コメント〉

・8年間で3万5千人以上の市民が被害を受け、何千もの家族が家を失い、中には稼ぎ手がいなくなった人もいます。毎日、何十発もの砲弾とミサイルがドネツクとルガンスクの両共和国の都市に降り注いでいる。今、ドンバスにいる子どもたちは、どんな砲弾が飛んでくるのか、音でわかるようになっている。

・2014年以降、欧米はウクライナに410億ドル以上の軍事支援を行い、現在も武器・弾薬の提供を続けている。都市に向けて発射されるのは、NATOの砲弾であることはよく知られている。事故現場からは、フランス、アメリカ、ドイツ、スペインの弾薬の素や破片が見つかっている。

・同時に「文明」世界はこの事実を無視し続け、ドンバスの大虐殺を支援することでこの世界自身が被る損失にもかかわらず、米国の曲に合わせて踊り続けているのである。

今日、私たちはもう一度、欧米に注意を喚起します。

・そして、我々は2022年11月19日にフランス、イタリア、スペインで平和的行動を発表し、これらの国の指導者に要請します。

-ウクライナへの武器供給を停止すること

-ロシアとの「制裁戦争」を放棄すること

-モスクワとの直接対話を再開する。



## ●ロシア外務省報道官ザハロフの論評(2022年11月)

NATO 諸国は、ロシアの特殊作戦が開始される前から定期的にウクライナに武器を供給してきましたが、モスクワはこれにより死傷者が増えると繰り返し警告しています。

NATO はウクライナでロシアとの「代理」戦争に従事している、とロシア外務省のスポークスマン、マリア・ザハロフは言った。

彼女は、同盟は「ウクライナ全土の民間人に対する戦争犯罪と残虐行為は罰せられないままになる」というキーウ政権の信念を強化している」と強調した。

ザカロフ氏は同省のウェブサイトに掲載された声明のなかで、「紛争への直接参加を却下したものの、NATO がウクライナ側でウクライナの人々を利用してロシアと実質的に戦っていることが明らかになりつつある」と述べた。

広報担当者は、ウクライナにますます多くの武器を送ることにより、NATO は紛争の長期化に貢献していると付け加えた。

米国とその NATO 同盟国はすでに約 25,000 の対空システムをウクライナに提供しており、ワシントンでは最近、統合参謀本部議長のマーク・ミリー米陸軍大将がキーウのための新しい武器パッケージを検討していると述べた。彼は、ウクライナはすでに 60,000 の対戦車システムを受け取っていると付け加えた。EU はまた、11 億ドル相当の軍事援助のパッケージに合意し、ウクライナへの武器供給者のリストに加わった。

## ●「ゼレンスキーは第 3 次大戦を始めようとした」——米保守派から非難相次ぐ(2022年11月17日)

<ポーランドにミサイルが落下した事故を早々に「ロシアの NATO に対する挑戦」と決めつけ、反撃を促したことで、ウクライナの英雄は手痛いイメージダウンを被った>

「NATO はウクライナと共にある」——ブリュッセルの NATO 本部のスクリーンに映し出されたゼレンスキー(11月16日) Yves Herman-REUTERS

11月15日にウクライナの隣国ポーランドの領内にミサイルが着弾し、2人が死亡した。今ではこれはロシアのミサイルを迎撃しようとしたウクライナのミサイルが誤って落下したものと見られているが、事故直後からこれを NATO 加盟国に対するロシアの意図的な攻撃だと激しく非難したウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は立場を失った。とくにアメリカの保守派の間では、「世界を新たな戦争に導こうとした」とゼレンスキーを非難する声が強まっている。

保守派コメンテーターのベニー・ジョンソンは「ウクライナは第 3 次世界大戦を始めようとしている。昨日ウクライナのミサイルが NATO 加盟国に着弾し、罪のない一般市民が殺された。これについてウクライナの指導者たちは嘘をつき、ロシアのミサイルだと非難し、AP 通信は何の疑問も抱かずにそれを記事にした」とツイートした。「ウクライナの指導部は嘘をつき、本格的な第 3 次世界大戦を起こそうとしたのだ。それが事実だ」

このツイートに先立ち複数の報道機関が、「ロシア製の」ミサイルがポーランド南東部のプシェドボフ近郊に着弾したと報じていた。一連の報道を受けてゼレンスキーは、ロシアとウクライナの間で続く戦争の「重大なエスカレーション」だと述べた。「これは集団安全保障に対するロシアの攻撃だ！きわめて重大なエスカレーションであり、行動が必要だ」とゼレンスキーは非難した。

**バイデンが犯人ロシア説を否定**

しかし 15 日夜から 16 日朝にかけて、アメリカ、ポーランドや NATO の複数の当局者が、ミサイルはロシアが NATO 加盟国のポーランドに向けて意図的に発射したものだという見方に異議を唱えた。

ジョー・バイデン米大統領は 15 日、「その見解を否定する予備情報がある。調査が完了するまで言いたくない」と述べた。「(ミサイルの)軌道から考えると、ロシアから発射されたとは考えにくい。いずれ分かるだろう」

ポーランドのアンジェイ・ドゥダ大統領もミサイル着弾についてコメント。ナショナル・パブリック・ラジオ(NPR)によれば彼は、「今のところ、ロシア軍が発射したロケットだという証拠はない」とした上で、「ミサイルはウクライナが防空手段として使用したものであることを示す兆候が多くある」と述べた。

NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長も、着弾したのはウクライナが防衛のために発射したミサイルの「流れ弾」だった可能性が高いと述べた上で、「だがウクライナが悪いのではない。最終的な責任は、ウクライナに対して違法な戦争を続けているロシアにある」と付け加えた

「危険なサイコパス」(※サイコパスとは「反社会的な人格を持つ人」のこと)

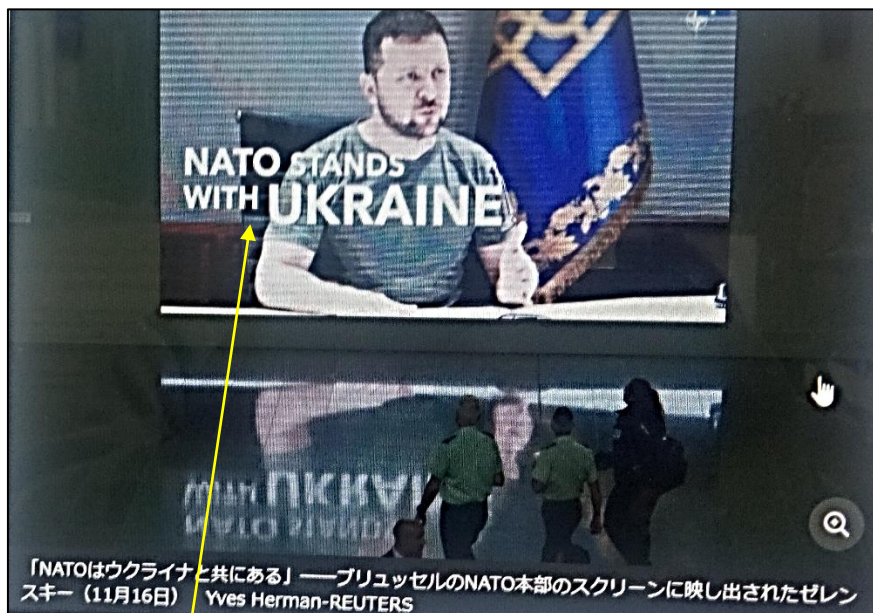
アメリカではジョンソンのほかにも複数のツイッターユーザーが、ミサイル着弾に関する報道を受けたゼレンスキーの当初のコメントを批判した。

保守派のポッドキャスト番組司会者マット・ウォルシュは、「ゼレンスキーは今、地球上で最も危険なサイコパスだ。彼は新たな世界大戦を始めるようとしている」とツイートした。

起業家のブレア・ブラントは次のように投稿した。「ゼレンスキーの軍が、おそらく誤ってポーランドにミサイルを着弾させ、それを利用して NATO に第 3 次世界大戦を起こさせようとしたことがはっきりした。これは世界を救いたい、あるいは対立を緩和させたいと考えている英雄の行動ではない」

ドナルド・トランプ Jr.(ドナルド・トランプ前大統領の長男)もこのニュースに反応し、次のようにツイートした。「NATO 加盟国のポーランドにミサイルを撃ち込んだのはウクライナだったのだから、我々は少なくとも、何十億ドルも費やして彼らに兵器を提供するのをやめたらいいのでは？」

ロイター通信によれば、ロシア国防省は 15 日に声明を発表。ポーランドに向けてミサイルを発射した事実はないと否定し、一連の報道は「状況をエスカレートさせるための意図的な挑発」だと非難した。



「NATO はウクライナとともにある」—心配だなあ。

## ●森元首相がゼレンスキー批判(2022年11月19日)

森喜朗元首相は 18 日夜、東京都内で開かれた日本維新の会の鈴木宗男参院議員のパーティーであいさつし、ウクライナのゼレンスキー大統領を批判した。「ロシアのプーチン大統領だけが批判され、ゼレンスキー氏は全く何も叱られないのは、どういうことか。ゼレンスキー氏は、多くのウクライナの人たちを苦しめている」と発言した。

ロシアのウクライナ侵攻に関する報道に関しても「日本のマスコミは一方に偏る。西側の報道に動かされてしまっている。欧州や米国の報道のみを使っている感じがしてならない」と指摘した。

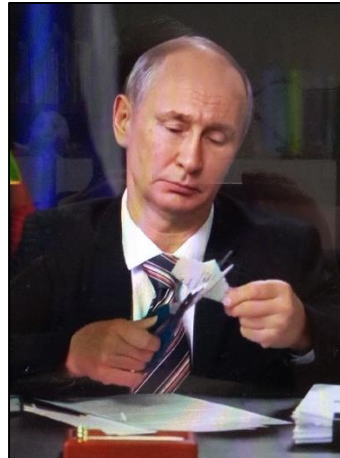
ロシアに厳しい姿勢の岸田文雄首相も「米国一辺倒になってしまった」とした。

<https://ameblo.jp/diet-witch-aki/entry-12775328876.html>



## ●「制裁」と「飾り」にするプーチンそっくりさん面白ビデオ(2022年11月22日)

<https://twitter.com/i/status/1594854334898266112>



## ●ダグラス・マクレガーとスコット・リッターの戦況分析(2022年9月24日)

ダグラス・マクレガーは、米陸軍退役大佐、アメリカ保守党のシニアフェロー、トランプ政権の元国防長官顧問、受賞歴のある戦闘経験者であり、スコット・リッターは、元米海兵隊諜報員で、旧ソ連で軍備管理条約を締結し、砂漠の嵐作戦ではペルシャ湾で、イラクでは大量破壊兵器の軍縮を監督した軍人である。

①ゼレンスキーの戦略はウクライナを惨事に導いた。踏み止まることは負けること。—ダグラス・マクレガー(イノスミ=ロシア政府系メディア“inoSMI”)

--ウクライナはドイツ国防軍の例に倣い、陣地保持の戦略に固執することを決めたと TAC は書いている。ヒトラーの戦術は失敗であったことが証明された。しかし、ゼレンスキーは撤退ではなく反撃を命じ続け、国を破滅に近づけていく。--

1942 年末、ドイツ国防軍が壁に突き当たり、これ以上東に進めなくなると、ヒトラーは戦術を変え、地上軍を、敵に対する行動から地上の保持に切り替えた。

ヒトラーは、広大なソ連の領土を防衛することを要求したが、そのほとんどは空っぽで、戦略的重要性もなかった。

ドイツ軍は陣地保持のため、遅々として進まないソ連の敵を出し抜く作戦能力を失っていなかったが、兵站も限界に達していた。ドイツ国防軍は、陣地保持と無駄な領土を取り戻すための果てしない反撃を組み合わせることで、自らをゆっくりとした苦渋に満ちた破壊へと追いやったのだ。

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領も、米英のアドバイザーからの助言もあって、東部での保持戦略を採用したようだ。

ウクライナ軍は、市街地での防衛を準備することで固定化した。その結果、都市の中心部は要塞化され、「最後の砦」と化した。マリウポリのような都市からの賢明な撤退は、ウクライナ軍の最高の部隊を救うことができたのに、検討さえされなかった。

これに対し、ロシア軍は計画的に守備隊を孤立させ、粉碎し、逃走経路と援軍の到着を断ち切った。ウクライナ軍を最小限の損失で撃破するというモスクワの決意が実を結んだ。

ロシア軍が東部に進出して以来、ウクライナは常に報告されているよりも重い損失を被ってきたが、今回のケルソン地方での反撃の失敗により、その損失は恐るべきレベルまで上昇し、もはや隠すことができなくなってしまった。ウクライナは毎月 2 万人の死傷者を出している。

126 榴弾砲、80 万発の砲弾、HIMARS の到着にもかかわらず、数カ月にもわたる激しい戦闘でウクライナの地上部隊の戦力は揺らいでいる。そんな中、ゼレンスキーは領土を取り戻し、ウクライナの対ロシア戦略上、絶望的な状況ではないことを示すために反撃の指示を出し続けている。

ドンバスとハリコフを結ぶイジウムでの AFU(ウクライナ軍)による最近の攻勢は、キエフへの贈り物のように見えるかもしれない。イジウム西方のロシア軍は軽装備の兵士(内勤部隊、特殊部隊、空挺部隊)2,000 人弱であることが判明したのだ。

これを受けて、ロシア軍司令部は、ウクライナ支配地域の約 1%から少人数の部隊を撤退させることを決定した。しかし、キエフはそのプロパガンダの勝利のために高い代償を払った。

様々な報告によると、ロシアの大砲、ミサイル、空爆が殺戮の場と化した平原での犠牲者は、5 千から 1 万の兵士の死傷に及んだとされている。

ワシントンはロシアの兵器を倒してウクライナの戦闘を止める力がないのだから、ウクライナ国家の廃墟をロシアの脇腹の傷口にしようとするのは明らかであろう。

しかし、このアプローチの弱点は、当初からロシアが極めて厳しい条件での突然のエスカレーションで敵対関係を終わらせるだけの十分な資源を持っていることであった。まさに今、私たちはそれを目の当たりにしているのである。

そのため、プーチン大統領が 30 万人の予備役の部分動員を発表したのも当然といえば当然である。

その多くは、ロシアの他の地区でロシア軍の正規部隊と交代し、ウクライナでの作戦に解放されることになる。また、ウクライナ東部のロシア軍部隊に合流する者もいる。

プーチンが交渉のテーブルにつき、ウクライナでの作戦の範囲と破壊力を制限しようとする姿勢は、常にワシントンに弱さと誤解されてきた。

しかし、プーチンの目標は常にウクライナ東部の NATO の脅威を排除することに限られていたことは、当初から明らかであった。

この紛争に乗じて、ドイツに F-35 戦闘機を、中東欧の連合国政府に大量のミサイルやレーダーなどの装備を売り込もうとしたワシントンの意図は、今や逆効果になっている。

アメリカの将軍は、長い間(そして失敗したわけでもないが)、無意味な決まり文句で有権者をなだめてきた。ウクライナ東部の状況はモスクワにとってますます有利になり、世界におけるロシアの地位も強化されている。

ワシントンは、ウクライナにおけるロシアの力の弱体化に「成功」したと宣言して行動を巻き戻すか、ヨーロッパ全体を巻き込む地域戦争のリスクを冒すかという厳しい選択を迫られているのである。

しかし、ヨーロッパでは、ワシントンとモスクワの戦争は、単なる痛ましい話題ではない。ドイツ経済は崩壊の危機に瀕している。ドイツの産業界や家庭はエネルギーを必要としているが、そのエネルギーは毎週高くなる一方だ。ドイツの経済的な混乱は、しばしば米国でも厳しい状況に陥る前兆であることが歴史的に知られている。

さらに重要なことは、ヨーロッパ諸国、特にフランスとドイツにおける社会的結束が疑問視されていることだ。ベルリン警察は、「多文化」の首都の電力網が崩壊した場合、冬季の暴動や略奪に対処するための緊急計画を策定しているとさえ伝えられている。

不満が高まり、ドイツ、フランス、イギリスの政府は、ストックホルムやローマに続いて中道右派連合に政権を明け渡す可能性がある。

しかし、キエフはロシアからの防衛に最後の力を振り絞り、モスクワの思うつぼにはまり続けている。

バイデン大統領は、「必要な限り」ウクライナを支援すると断言している。しかし、もしワシントンが戦略的石油備蓄を枯渇させ、ウクライナに兵器を送り続けるなら、キエフの支援はすぐにアメリカ自身の防衛に匹敵し始めるだろう。

ウクライナの GDP の 95%を生産する領土を、すでにロシアが支配している。これ以上、西に移動する必要はないのだ。この記事を書いている時点で、ドンバスでの作戦が終われば、モスクワが 2014 年にウクライナ軍の手によって恐ろしい残虐行為を目撃したロシアの都市、オデッサに目を向けることは明らかだ。

モスクワは急がない。ロシア人は整然と行動し、一步一步を考えている。ウクライナ軍(AFU)は反撃に次ぐ反撃で出血している。なぜ急ぐのか？

モスクワは待ち方を知っている。中国、サウジアラビア、インドがロシアの石油をルーブルで買っている。この制裁は、ロシアではなく、アメリカのヨーロッパの同盟国を傷つけているのだ。

これからの冬は、モスクワのどんな行動よりも、確実にヨーロッパの政治情勢を変えていくだろう。一方、ポーランドの最南端にある人口 2 万 7 千人の都市ザコパネでは、すでに雪が降っている。

(引用終了)

ダグラス・マクレガーは、退役大佐、アメリカ保守党のシニアフェロー、トランプ政権の元国防長官顧問、受賞歴のある戦闘経験者、5 冊の著書の著者である。

**②ロシアはもはや、NATO が装備したウクライナ軍ではなく、ウクライナ人が配属する NATO 軍と戦っている。しかし、ロシアはハリコフの挫折にもかかわらず、依然として優位に立っている。—スコット・リッター(グローバルリサーチ、2022 年 9 月 14 日)**

ウクライナ軍は 9 月 1 日、南部の都市ヘルソンの北の地域に配備されたロシア軍に対する大規模な

攻撃を開始した。10 日後、ウクライナ軍は攻撃作戦の範囲と規模を拡大し、北部の都市ハリコフ周辺の地域も含めた。

ヘルソン攻勢はロシア軍によって反撃され、ウクライナ軍は人員と物資の双方に多大な損失を被ったが、ハリコフ攻勢は大きな成功を収め、以前はロシア軍によって占領されていた数千平方キロメートルの領土がウクライナ政府の支配下に戻った。

ハリコフ地域で活動するウクライナ人に対する独自の反撃を開始する代わりに、ロシア国防省 (MOD) は、多くの人々が衝撃的だと感じる発表をテレグラムを通じてした。

「ドンバスを解放するための特別な軍事作戦の述べられた目標を達成するために」「ロシア軍を再編成することが決定された...ドネツクの方向への努力を増やすために」。

撤退という概念を軽視して、ロシア国防省は、「この目的のために、3 日以内にドネツク人民共和国の領土への [ロシア] 軍の移転を縮小し、組織するための作戦が実行された。

この作戦の間、「多くの気晴らしとデモ措置が実施され、軍隊の実際の行動が示された」とロシア人は宣言し、「2000 人以上のウクライナ人と外国の戦闘機が破壊され、100 台以上の装甲車と砲兵」が破壊された。

不滅のヨギ・ベラの言葉を引用すると、それは「既視感をもう一度」であった。

### 戦争の段階

3 月 25 日、ロシア連邦軍参謀本部の主要作戦局長セルゲイ・ルドスコイ大佐はブリーフィングを行い、ウクライナにおけるロシアの「特殊軍事作戦」(SMO) のフェーズ 1 の終了を発表した。

ロシア軍がウクライナとの国境を越えた 2 月 24 日に始まった作戦の目標は、彼らを突き止め、ドンバス地域に配備されたウクライナ軍の大幅な増援を阻止するために、「ウクライナ軍の軍事インフラ、装備、人員にそのような損害を与える」ことだった。

ルドスコイ大佐はその後、ロシア軍が撤退し、再編成して「主なもの、すなわちドンバスの完全な解放に集中」できるようにすると発表した。

こうしてフェーズ 2 が始まった。

5 月 30 日、私はコンソーシアムニュースに記事を掲載し、フェーズ 3 の必要性について議論した。

私は、「ロシアの作戦のフェーズ 1 とフェーズ 2 はどちらも、ウクライナ東部におけるウクライナの軍事力増強によってルガンスクとドネツクにもたらされる脅威を排除するために必要な軍事要件に特に合わせられた。...近いうちに、ロシアは、東部に駐留するウクライナ軍を打ち負かしたと発表し、そうすることで、ロシアに作戦を引き受ける法的正当性を与えた差し迫った脅威の概念を終わらせるだろう。

そのような結果は、「ロシアに、非ナチス化、非軍事化、ウクライナの恒久的な中立性、そしてロシアが 2021 年 12 月の条約提案で描いた線に沿った新しいヨーロッパの安全保障枠組みとの NATO の同意を含む、多くの未達成の政治的目標を残すだろう。もしロシアがこの節目で軍事作戦の停止を呼びかけるなら、それは政治的勝利をウクライナに譲ることになり、ウクライナは負けないことで『勝つ』ことになる」と私は宣言した。

この考え方は、「ウクライナ軍がドンバス地域を奪還するのに十分な戦闘力を持っている限り、差し迫った脅威が存在し続けるだろうと以前に主張することができたかもしれないが、そのような議論は今日ではできない」という私の信念に基づいていた。

要するに、ロシアが第三段階に拡大する原動力は、第 2 段階でドンバスを解放するという使命を完了した後にのみ生じると私は信じていた。「ウクライナは、NATO からの軍事援助の大規模な注入があっても、二度とドンバス地域のロシアの征服を脅かす立場には決してないだろう」と私は言った。



私が間違っていた。

The Atlantic のネオコン・スタッフ・ライターのアン・アップルバウムは、最近、ウクライナ軍最高司令官代理のエフヘン・モシウク中将に、成功したウクライナ攻撃作戦についてインタビューした。

「本当に私たちを驚かせているのは、ロシア軍が反撃していないことです」とモシウクは言った。

アップルバウムは将軍の言葉に彼女自身のスピンを入れた。「戦うか逃げるかの選択を迫られた」と彼女はロシア兵について書いている、「彼らの多くはできるだけ早く逃げているようだ」と彼女は書いている。

アップルバウムによれば、戦場でのウクライナの成功は、ウクライナ人が”この戦争に勝てる”と結論づけ、そうすることで”プーチン政権の終焉をもたらすことができる”という新たな現実を作り出した。私は間違っていなかった。

### ソ連と NATO のドクトリン

戦争は複雑なビジネスだ。アップルバウムはこれについて無知のようだ。ウクライナ軍もロシア軍も、資格のある戦士を輩出するために設計された機関に支えられた大規模で専門的な組織だ。両軍とも、よく率いられ、装備が整っており、割り当てられた任務を引き受ける準備ができている。彼らはヨーロッパで最大の軍事組織の一つだ。

さらに、ロシア軍には、軍事芸術の広範な訓練を受けた最高級の将校が配属されている。彼らは戦略、運用、戦術の専門家だ。彼らは自分の仕事を知っている。

一方、ウクライナ軍は、2014 年以来、ソ連時代のドクトリンが、NATO のドクトリンと方法論を組み込んだハイブリッド・ドクトリンに取って代われ、根本的な変革を遂げた。

この変革は、ロシア侵略以来劇的に加速しており、ウクライナ軍は、事実上古いソ連時代の重装備から、何十億ドルもの装備と訓練を提供している NATO 諸国の組織と装備をより厳密に反映した兵器庫に移行している。

ウクライナ人は、ロシアのカウンターパートと同様、戦場の現実に適応する必要性に長けた軍事専門家だ。しかし、ウクライナの経験は、戦闘条件下での戦争(ソビエト時代と現代の NATO)に対する二つの異なる教義的アプローチを融合させようとすることによって複雑になっている。この複雑さはミスの機会を生み出し、戦場でのミスはしばしば死傷者(重大な死傷者)につながる。

ロシアはウクライナに入ってから半年の間に、三つの異なるスタイルの戦争を戦った。

最初の戦争は、戦場を軍事のおよび政治的に形作るためにできるだけ多くの領土を奪取するように設計された機動戦争であった。

この作戦は、約 200,000 人のロシア軍と同盟軍で行われ、最大 600,000 人の予備役兵に支えられた約 260,000 人の現役ウクライナ軍と対峙していた。標準的な 3:1 の攻撃者と防御者の比率は適用されなかった - ロシア人はウクライナの数的優位性を最小限に抑えるためにスピード、驚き、大胆さを使用しようとし、その過程でロシアとウクライナの軍隊間の主要な戦闘を防ぐウクライナの急速な政治的崩壊を望んでいた。

この計画はいくつかの地域(例えば、南部ヘルソン周辺)で成功し、ウクライナ軍を固定し、作戦の重要地域から援軍を迂回させた。しかし、それは戦略的に失敗し、ウクライナ人は崩壊せず、むしろ固まり、長くて厳しい戦いを先取りした。

ロシア作戦の第 2 段階では、ロシア軍はドンバスの解放に集中するために再編成された。ここで、ロシアは作戦手法を適応させ、火力の優位性を利用して、広範な防衛網に掘り起こされたウクライナ軍に対してゆっくりと、意図的な前進を行い、そうすることで、ロシア人死傷者 1 人につき 10 人以上の

ウクライナ人が死傷したという前代未聞の死傷者率を達成した。

ロシアがウクライナ軍に掘り起こされたことに対してゆっくりと前進している間、アメリカと NATO はウクライナに、いくつかの装甲師団(戦車、装甲戦闘車両、大砲、支援車両)に相当するものを含む何十億ドルもの軍事装備と、ウクライナ国外の軍事施設でのこの装備に関する広範な作戦訓練を提供した。

要するに、ロシアが戦場でウクライナ軍を破壊するのに忙しかったのに対し、ウクライナは、破壊された部隊を、非常によく装備され、よく訓練され、よく率いられた新鮮な部隊に置き換えて、その軍隊を再編成するのに忙しかったのだ。

紛争の第 2 段階では、ロシアが古いウクライナ軍を破壊するのを見た。その代わりに、ロシアは、再編成された NATO 訓練部隊の支援を受けて、動員された領土と国家部隊に直面した。しかし、NATO の訓練を受けた部隊の大部分は予備役に保持されていた。

### 第三段階 - NATO 対ロシア

日曜日にハリコフからロシアが撤退。(ロシア国防省)

ロシアは、NATO による兵站的支援、NATO による訓練、NATO 諜報機関の提供、NATO 軍事計画立案者との調和のとれた NATO スタイルの軍事力に直面している、NATO との全面的な代理戦争に巻き込まれている。

これが意味することは、現在のウクライナの反撃は、第二段階の戦いの延長としてではなく、むしろ、ウクライナ-ロシア紛争ではなく、NATO-ロシア紛争である新たな第三段階の開始と見なされるべきだということだ。

ウクライナの戦闘計画は、「メイド・イン・ブリュッセル」があちこちに刻印されている。部隊の構成は NATO によって決定され、攻撃のタイミングと攻撃の方向も決定された。NATO 諜報機関は、ロシア防衛の縫い目を慎重に特定し、NATO が作成した火器管制計画に基づいて活動するウクライナ砲兵隊が標的にした重要な指揮統制、兵站、予備集中ノードを特定した。

要するに、ロシアがヘルソンとハリコフ周辺で直面したウクライナ軍は、これまで直面したどのウクライナの敵とも違っていったのだ。ロシアはもはや NATO が装備したウクライナ軍と戦っていたのではなく、むしろウクライナ人が配属された NATO 軍と戦っていたのだ。

ウクライナは何十億ドルもの軍事援助を受け続けており、現在、何万人もの兵士が NATO 諸国で広範な訓練を受けている。

第 4 段階と第 5 段階がある。

ウクライナが戦って死ぬ意志を使い果たし、NATO がウクライナ軍に供給し続ける能力を使い果たすか、ロシアがウクライナで決定的でない紛争と戦う意欲を使い果たす前に、必要なだけ多くの段階がある。5 月、私はウクライナに何十億ドルもの軍事援助を提供するという米国の決定を「ゲームチェンジャー」と呼んだ。

### 大規模なインテリジェンスの失敗

今日、ウクライナで我々が目撃しているのは、このお金がゲームをどのように変えたかだ。その結果、ウクライナ軍とロシア軍がさらに死亡し、民間人が死亡し、装備が破壊された。

しかし、もしロシアが勝利するのであれば、ウクライナの攻撃の成功に至る多くの失敗を特定し、それに応じて適応する必要があるだろう。

まず第一に、ハリコフ周辺のウクライナの攻撃は、1973 年のヨム・キプール戦争を勃発させたスエズ運河へのエジプトの攻撃をイスラエルが予測できなかったこと以来、専門の軍事力による最も深刻

な諜報活動の失敗の一つである。

ウクライナ軍は、ここ数週間、ヘルソン地域で攻撃を行う意向を示していた。ウクライナがヘルソン線に沿って攻撃を開始したとき、ロシアはこれが待望の攻撃であると考え、予備軍と増援をこの前線に急いだようだ。

ウクライナ人は大きな損失で撃退されたが、ロシアが劇場の予備をコミットする前にはそうではなかった。数日後、ウクライナ軍がハリコフ地方を攻撃したとき、ロシアは驚いた。

そして、NATOがウクライナの軍事作戦のあらゆる側面に自らを統合した程度がある。

どうしてこんなことが起こるのだろうか？

この規模の諜報活動の失敗は、諜報データを収集するロシアの能力の欠陥と、ロシア指導部のためのタイムリーで正確な評価を提示できないことを示唆している。これには、上から下へのレビューに適切に対処する必要がある。要するに、頭は転がるでしょう - そしてすぐに。この戦争はすぐには終わらず、ウクライナは将来の攻撃行動に備え続けている。

### なぜロシアはまだ勝つのか

結局のところ、私はまだ最終戦は変わらないと信じている。ロシアが勝つだろう。しかし、この戦争を延長するためのコストは、関係するすべての当事者にとってははるかに高くなっている。

ウクライナの反撃が成功するには、適切な視点を向ける必要がある。この勝利を達成するためにウクライナが被った、そして今もなお苦しんでいる死傷者は持続不可能だ。ウクライナは戦略的準備金を使い果たしており、もしウクライナがこれらの線に沿って前進を続けるという願望を持つならば、それらは再構成されなければならないだろう。これには数ヶ月かかる。

一方、ロシアは、防衛不能な空間しか失っていない。ロシアの死傷者は最小限に抑えられ、装備の損失は容易に交換された。

ロシアは、ウクライナのいかなる攻撃にも耐えうる強力な防衛線を北部に設けることで、軍事的態勢を実際に強化し、ウクライナの支配下にあるドネツク人民共和国の残りの地域を解放する任務を遂行するために利用可能な戦闘力を高めている。

ロシアはウクライナより遥かに戦略的な深さを持っている。ロシアは、発電所のような重要なインフラ目標を攻撃し始めており、それはウクライナ経済を不自由にするだけでなく、大量の軍隊を列車で迅速に移動させる能力も損なうだろう。

ロシアはハリコフの敗北が彼らに教えた教訓から学び、表明された任務目標を継続するだろう。

要するに、ハリコフ攻勢はウクライナにとって得られるものと同じくらい良かったが、ロシアは岩盤の底にぶつかるころまで来ていない。ハリコフの敗北によって特定された問題を解決するために、ロシアによって変更が加えられる必要がある。戦いに勝つことは一つのことである。別の戦争に勝つ。

ウクライナにとって、自軍が被った莫大な損失と、ロシアに与えた限定的な損害と相まって、ハリコフ攻勢は、せいぜい、ピュロスの勝利であり、ロシアがウクライナでの紛争に勝っている、そしてこれから勝つという基本的な現実を変えないものだ。

スコット・リッターは元米海兵隊諜報員で、旧ソ連で軍備管理条約を締結し、砂漠の嵐作戦ではペルシャ湾で、イラクでは大量破壊兵器の軍縮を監督した。